

海老名市立有鹿小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第1回)

- 1 日時 令和7年5月21日(水) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立有鹿小学校 コミュニティルーム
- 3 出席委員 鍵渡正徳委員、越智正則委員、北川八重子委員、
大久保敏委員、田中由美野委員、伊藤恵美子委員、新井悦子委員
池澤誠也委員、姫野珠実委員、土谷政巳委員、宮下翔太委員(記録)
柴田稜介委員
- 4 会議の内容
 - (1) 開 会
 - (2) 委嘱状交付
校長より新規委員の紹介・委嘱状交付
 - (3) 自己紹介
 - (4) 会長、副会長の選出
会長に、鍵渡委員を選出
副会長に、碓井委員を選出
 - (5) 鍵渡会長挨拶
 - (6) 学校長挨拶
学校概要、「いっしょに帰ろうデー」について
教頭より「防犯体制の強化」について
 - (7) 議事①令和7年度教育活動(グランドデザイン)について
姫野校長:最終的に変更した点は2点。昨年度学校運営協議会で話題となった「多様な考えを受けいれ」から「多様な考えを受けとめ」に変更した。いただいた意見から全て「受け入れる」ということではなく、まずは、相手の話を受けとめることから身につけさせたいと考え、変更した。
もう1点は、「自己有用感」について自己肯定感から自己有用感という言葉に変更した。有鹿小学校の普段の子どもたちの様子を見ていると、自己を否定する子はそれほど多いとは感じられない。それよりも、子どもたちには、それぞれに

自分の活躍する場所や必要されている経験を通して、自己有用感を高めていってほしい。

グランドデザインのその他の点については、変更はせず、個人的には、現状から難しいと思われる高い目標ではなく、努力次第で高められるであろうという目標を設定した。達成を目指して尽力したい。

また、去年の段階では、インクルーシブ教育について自信をもってこのような取り組みをしているとは言えなかったが、今年度は、有鹿小学校では様々な取り組みを始めた。まずは、環境面として、この後の学校視察でもインクルーシブの取り組みの一つとして行っているスペシャルサポートルームも見えていただきたい。また、新しい支援体制として、今年度1年生は2クラスだが、4人の教員で支援級を含めた1年生全員を支援、指導している。これまでは1人の教員が自分のクラスの児童を受けもっていたがインクルーシブの考えから通常級の児童も支援級の児童も同じ場で一緒に学ぶかそれを複数の教員で支援するという取り組みを行っていききたい。様々な活動をみんなで一緒に行っていくためにも支援者が必要なので、今年度は学年に、担任以外にも教職員がついている。学校だけでなく、PTC、応援団、地域の方々のお力を借りて子どもたちを支えながら1年間取り組んでいけたらと思う。

～授業風景の視察～

議事②令和7年度学校運営協会、実施計画

鍵渡会長：実施計画に記載のある挨拶ができる子はとても大事だと思う。普段から挨拶をして習慣づけをしていくことが大切だと思う。

児童の実態として「打たれ弱く、被害者意識が強い」とあるが、どのような実態なのか。

土谷教頭：子どもたちの様子を見てみると、何かあった時に些細なことでも落ち込んだり、学校を休んだりする子が多いなという感覚がある。

伊藤委員：先生がそう思うということは、他校と情報交換をする場があつてのことと思うが、地域性もあつたりするものなのか。

土谷教頭：校長会や教頭会の他にも、教員同士で情報交換をする場はある。また地域に限らず、学校ごとで学年などでも雰囲気の違いがある。

伊藤委員：地域性が関係しているならば、地域の方々も問題意識を持たなければいけないと思う。

土谷教頭：地域の特性が全く関係ないわけではない。例えば有鹿小学校では、登下校に関しても、道が狭く交通量も多いので保護者の声掛けが多くなると思う。そのような地域特有の声かけが子どもにも影響していくのではないかな。

伊藤委員：いろんな環境が関係していることが分かった。

大久保委員：歴代の校長の話を思い出しても、昔からどの校長も有鹿小学校の雰囲気と同じ感覚をもっている気がする。「打たれ弱い」というところは、伝統にしたくない部分。それが学校の雰囲気全体のものだと、新しく入った子もそれに流されてしまう。子どもたちにかかわる人たちが変わっていく必要があるのか。

越智委員：挨拶などは昔から有鹿小学校の子はできていると思う。良い点として、昔からの地域性が残っている部分だと思う。また、自己主張ができないというのも、同様に昔から残っている気がする。

伊藤委員：中新田小学校にも訪問していた時があるが、静かに授業は受けているのは同じだが、子どもの雰囲気はやはり違う気がする。
有鹿小学校は、あるかルームに来ている子たちなど繊細な子が多いのかもしれない。

大久保委員：いろいろなところで揉まれて打たれ強くなってほしい。

姫野校長：揉まれる中で、「もうだめ」「学校に行きたくない」ではなく、「がんばってみよう」になってほしいと願っている。それが学校のグランドデザインの育てたいこどもの姿の「たくましさ」につながっていると捉えていただきたい。

伊藤委員：繊細な子は、自分ではその気持ちの切り替えは難しいと思う。

姫野校長：そのためには教職員や保護者、地域の方々も、「次はできるかもしれないよ」など前向きな声かけを普段から子どもたちにしていくことが大切だと思う。

越智委員：インクルーシブ教育に関しては、海老名市全体で取り組んでいるのか。

姫野校長：海老名市全体で取り組んでいる。昨年度は、職員と教育長が話をする場があった。今年度は、子ども向けに教育長が話をしに来るほか、保護者と教育長の対話の場も予定している。

田中委員：興味がある。ぜひ参加したい。

柴田委員：インクルーシブについては、今年支援級の担任ではあるが、1年生の体育も担当している。支援級の子たちは、普段別の教室で勉強しているので、クラスに入った時に、「お客さん」のようになってしまうことがある。それを無くしていきたいと思う。まずは、担任の先生に限らず、先生たちみんなが1年生に関わっていくことで、子どもたちの意識も変わると思う。子どもたちからしても、どの先生もみんな1年生の先生という意識をもってもらうことで、担任の先生に限らず他の先生にも相談できると思う。先生と子どものつながりから、子ども同士のつながりに広げていきたい。2ヶ月取り組んでみた感覚として、子どもたちがとても安心しているように感じる。

姫野校長：今の1年生がそのように6年間育った姿や、どの学年でも同じ支援体制をとることができたらとても素敵だと思う。

伊藤委員：柴田先生が今年1年生を担当していいスタートになると思う。積み重ねていった6年後が楽しみ。

鍵渡会長：個人的にインクルーシブ教育を調べてみた。すべての子どもが同じ環境で過ごすということが、よく分からない部分があったが、柴田先生の話を書いてイメージがもてた。これまでの小学校の現場では、担任がクラスの全授業をもっていたが、今は違う。いろんな先生が子どもたちにかかわっていると感じた。

土谷教頭：教職員の意識も変えていかなければいけない。地域も同じ。例えば、クラスの中で立ち歩いてしまう子どもと同じ環境で学ぶという考えをしていく中で、これからは立ち歩いていても「座りなさい」ではない。保護者の方も、そのような意識をもっていく必要がある。

伊藤委員：結局大人がまず変わらなければいけない。子どもは大人を見ているから。

池澤委員：子どもの中でも「こうあるべき」と思っている子が多い。例えば登下校は必ずランドセルじゃなくてもいいと思う。しかし、リュックなどで学校に行くと子どもの中でも「ランドセルで来ないとダメ」「ルールだよ」という声が挙がる。ランドセルの事に限らず他の面でも同じようなことが起こると思う。その考えが大人の価値観からきているかは分からないが、そういったことから変えなければいけないと思う。

田中委員：たしかに必ずランドセルでなくてもいいと思う。

池澤委員：「こうだよ」と思っていることも、実はルールとしてないのであれば、変えなければいけない。それが親からきているのであれば学校からも保護者に説明していく必要があるのかもしれない。

伊藤委員：その子の好きなように、今までのものを撤廃していくのも難しいかもしれない。変えることで混乱につながるかもしれないから。いろんなパターン毎に見極めていく必要がある。

～授業風景を視察した感想～

鍵渡会長：高学年が制作したものが、自分たちが子どもの頃に作っていたものと違って、すごいと思う。

土谷教頭：図工について、昭和のころとは違い、今は発想を豊かに制作するということを大切にしているものが多い。

田中委員：今は図工というよりも美術な気がする。

大久保委員：どの学年も技法は教えるけど、それを上手につかって表現を豊かにしている。

火事や火をテーマにした作品が多くあった気がしたので、そのあたりは心配。

1年生も姿勢よく頑張っていた。

池澤委員：地域の特徴についてボランティア活動が少なくなっているとあるが、印象として、子どもたちが地域のお祭りに行くこと自体も少ない。河原口のこども神輿の参加も少ない。まずは、地域の催しに参加することで学校の行事やボランティア活動への参加につながるのではないかな。

伊藤委員：おみこしは学校ではなく、自治会が中心としておこなっているものだから、みんなに声をかけたくても難しい。

池澤委員：子どもが行事に参加できる環境を整えていく方向で考えていったほうがよい。

伊藤委員：お祭りの参加は、休日で学校がやっていない日だから学校が声かけしていくのは難しい。

姫野校長：自治会から学校への協力依頼も受けている。本日の「一緒に帰ろうデー」で子どもたちの下校中に自治会へ入会についてのチラシを配付している。ポスターを校内に掲示すること等も協力するとお伝えしている。

（６） 事務連絡

○年間行事予定について

- ・ 今年はせせらぎ祭りに参加予定。
- ・ 体育館工事は8月中旬に終わる。

○今後の学校運営協議会の開催について確認

- ・ 次回 令和7年11月26日（水）10:00から開催予定。

○海老名市コミュニティ・スクール研修会兼中学校区学校運営協議会について

- ・ 参加希望の方は、5月末までに連絡をいただきたい。

（７） 閉会